

優秀賞

主体的に生き生きと学ぶ生徒を育むインターネットの活用 社会科・理科・英語科での取り組みから

(代表執筆者) 愛知県岡崎市立城北中学校研究推進部 **もり 森** **たつ し 竜師**

1 | 主題設定の理由

「子どもが自ら学び、考え、主体的に判断する」ことが重要視されている昨今、中学校では「進路・進学」という壁からの逆算によって、生徒は受身的な学習に陥っている現実がある。生徒が、「主体的に学んでいく力」を育むためには、限られた枠の中で、敷かれたレールの上を走る「教師主導型授業」を根本から見直さなくてはならない。

生徒が自分の手でパソコンのマウスをクリックして情報を得たり、電子メールやチャット、テレビ会議システムを通して生まれるコミュニケーションや、ホームページ制作によって伝えたいことを伝えられる。その醍醐味は、教科書と目の前にいる教師のみから学ぶ「敷かれたレールの上を走る学習」とは違い、教室の枠を超えた「自ら学ぼう」とする主体的な活動を促すと考えられる。そこで、「主体的に生き生きと学ぶ生徒を育むインターネットの活用」という主題を設定した。

2 | 研究の仮説

通信型マルチメディアを利用した情報受信により、生徒は自らの手で最新性・専門性の高い情報に直接触れることができ、主体的に学習を進めることができる。

通信型マルチメディアを利用した情報発信により、生徒は学習の成果を広域に向けて自ら表現することができ、そして他から評価を得ることで、自主的に学習を進めるこ

とができる。

通信型マルチメディアを利用したコミュニケーションにより、情報の先にいる人と関わり、生の情報を得て、より考えを深めながら、主体的に学習を進めることができる。

3 | 研究の手だて

インターネットを利用して得られるサービスの中では、「ホームページの検索と制作」「電子メールの送受信」「チャット（キーボードを利用したリアルタイム会話）・テレビ会議システム」を授業に取り入れることにする。また、テレビ会議システムについては、安定した映像と音声の配信を保証するために、電話回線を通して相手と直接接続するタイプの、専用システムも利用する。

具体的に英語科では、自分の考えを英語で表現できること、そして相手を理解するために英語を読み取ることに重点を置き、単元ごとに自分の思いを英語にしてホームページを制作していく。また、電子メールを利用した英文でのコミュニケーションを通して、読解力と表現力を養う。また、チャットやテレビ会議システムを利用して、より実践的な英語力を高めるようにする。

理科では、課題追求学習の一人調べの手段の一つとして、ホームページの検索を利用させる。さらに、より具体的な情報を得るために、電子メールやテレビ会議システムを利用する。

社会科では、時事問題を教材として取り上

げ、最新の情報をインターネットから得るようにする。また、ホームページの掲示板や電子メールを利用して、息の長い意見の交換をする。

4 | 実践(1)英語科

教材 1年 Unit 8「未来の学校」(8時間)

英語科では、これまでも国際理解教育を踏まえてインターネットを活用した実践を行ってきた。ねらいは次の3点である。

海外との交流を通して、積極的に英語でコミュニケーションしようとする態度を身につける。

テレビ会議ソフトやチャットを通して、相手の考えを理解し、自分の伝えたいことを表現する。

海外との交流を通して異文化への興味・関心を深めるとともに、日本の文化について再認識する。

しかし、その授業内容や、チャット上での生徒の会話のやりとりを分析してみると、次の問題点が上げられた。

1年生程度の内容にとどまり、日頃の授業で蓄積してきた学年に相応した英語力が生かされていない。

会話も相手の言うことに反応して答えるというよりも、こちらの考えた内容を一方的に話すといった傾向にあり、実践的なコミュニケーションが成立していない。

コミュニケーションで大切なことは、「言葉として発言すること・尋ねて情報を得ること・自分の考えや言いたいことを状況に合わせて表現すること」であると考え。すなわち、相手の話すことに対して、自分はどうか反応するか考える力と同時に、英文を組み立てる力を発揮できなければならない。そこでインターネットの活用を次の3点にしぼり、1年生でできる方法で実践を行った(資料1, 2)。

日本と外国の学校の違いを調べるための情報検索手段としての活用(ホームページの検索)。

自分たちの考えを発表したり、広く意見を求めるための手段としての活用(ホームページの開設)。

段階	学習課題	学習活動	時間	備考
Starting Out	時刻を尋ねたり、それに答えたりする表現に慣れよう。	What time is it? It is eight o'clock.	1	LD
由美たちの冒険	ある物についてその持ち主を尋ねたり、それに答えたりする表現に慣れよう。	Whose bike is this? It is mine.	2	LD
発展	約30年後の学校について現在の学校と比較し、考えよう。 自分のホームページに書き込もう。 自分の意見を発表しよう。 インターネットを活用し、世界に発信しよう。	I will come to school by car. 自己紹介, 環境問題 未来の学校	5	ファイル ホームページ 検索・制作

資料1 / 第1学年の指導計画

第1学年次 指導計画

1 年	基礎基本をおさえた授業+楽しむ時間の設定	1 学期	<p>Hello, English! こんにちは！ - よこそグリーン先生 カナダはでかい！ - あれは工場？ 森の音楽家 - グリーン先生の初授業 これはだれ？ - マリオの年齢は？ 今日は何曜日？ カルガモのきょうだい - ハンバーガーショップで 動作をしよう</p>	<p>アルファベット I'am ~, You are ~, Are you ~? This(That) is ~. Is this(that) ~? She(He) is ~. I (don't) like ~. Dou you ~? Who(What) is this? How old is ~? ~ or -? Let's ~, some, any, my uncle's 命令文</p>	<p>・自分のいいたいことを外国の友達に紹介する。 ・次の休日の計画の有無について問答する *E-Mail 随時</p>	<p>・和製英語 ・スポーツ ・日曜日の過ごし方</p>
		2 学期	<p>部屋を見て推理しよう - 謎のマシン コロンの友達 - ここはどこ？あなたはだれ？ 今日は何日？あなたの誕生日は？ 今何時？ - 未来の学校 ある日曜日の街 - エイリアン襲来？ 何してるの？ 飛ぶ魚、泳ぐ鳥 - ジョンの腕前拝見 月世界より</p>	<p>Masao plays ~ Does He ~?, does not Where is ~? What time is it?, Whose ~? 現在進行形 Which ~? I can ~, Can you ~? I cannot ~</p>	<p>・世界各地の時刻と天気について話す。 ・地球のゴミ問題、エネルギー資源などについて「自分に何ができるか」話す。 *Homepage *E-Mail ・未来の学校について話す。 一日の生活・言語 ・地球について話す。 *Chat</p>	<p>・ごみ問題 ・世界の時刻 ・天気 ・自分の部屋 ・一日の生活 ・未来の学校 ・宇宙</p>
		3 学期	<p>きのう英語を勉強した？ 帰還 21世紀からのメッセージ</p>	<p>規則動詞の過去 不規則動詞の過去 Did you ~?</p>	<p>・地球を守るために「何ができるか」話す。 *Homepage *Chat</p>	<p>・地球 21世紀 ・日記の書き方 ・手紙の書き方</p>
		主な教材	おさえるべき基礎・基本	インターネット利用時に使いたい表現内容	ホームページ更新時に取り上げたい内容	

資料2 / 3年間を見通した年間指導計画の一部 (1年次)

交流のためのコミュニケーション手段としての活用 (電子メールの交換とチャットの利用)。

(1) 継続的に考える場の設定

使用している教科書は、年間を通して「由美たちの冒険」という一つのストーリーになっている。Unit1~5では、日常生活のごく身近な話題が取り上げられ、Unit6以降では、主人公たちがタイムマシンに乗って、21世紀の世界へ行くという設定で話が進められている。ゴミ問題・学校教育・エネルギー問題などが散りばめられ、1年生でありながら、英語を学びながら21世紀の地球を考えることができるように工夫されている。この点に着目し、継続的に考える場を設けた。また、授業の中でのインターネット利用の日常化を考え、身近にいるALTから学校生活について生の

声を聞いた後、「個別作業」として15分間位置づけ、自分の進捗や目標に応じて作業を選択し、取り組ませた。

(2) ホームページの検索

日本と外国の学校の違いを調べるため、身近な外国の学校である交流校のホームページを検索させた。交流校は次の3校である。

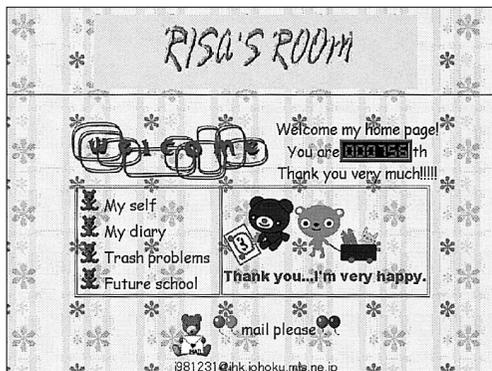
Singapore : Kranji Secondary School

Australia : Staggs

(Gippsland Grammar School)

Korea : ソウル女子商業高校

ホームページを見た生徒の感想には、「スクールマークが城北よりかっこいい」「制服がかわいい」「外国では一人ひとりが先頭に立って力を合わせている」「校舎やクラブ、日課など、日本との違いの多さに驚いた」などがあり、日本の学校との違いを知ることが



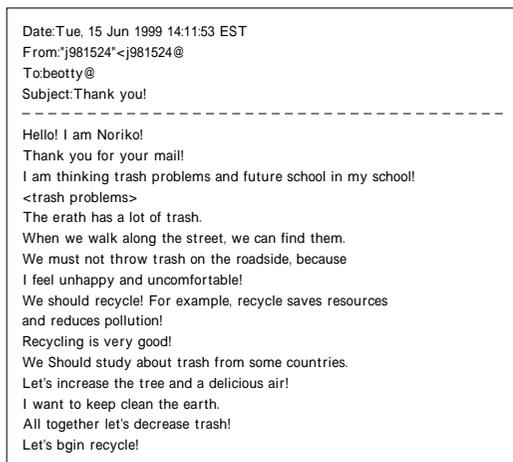
資料3 / 公開した個人ホームページ

できた。

(3) ホームページの開設

海外の人と関わっていくためには、自分がどのような人物で、どのような考えを持っており、何について話がしたいのか、表現できなくてはならない。自分たちの考えを発表したり、広く意見を求めるため、英語で個人のホームページを開設し、「自己紹介・ゴミ問題・未来の学校」について、自分のホームページにまとめた(資料3)。

また、授業時間内に確保されている、約15分間のパソコンを利用できる「個別作業」の時間を使って、継続的に考えを書き加えていった。



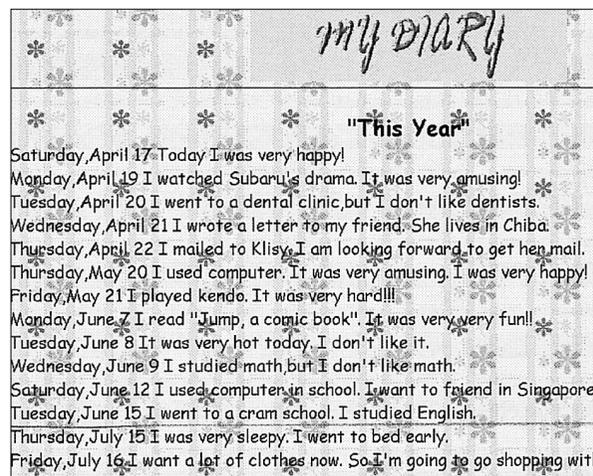
資料4 / 生徒の送信したメール

(4) 電子メールの活用

交流のためのコミュニケーションの手段として、自分の電子メールアドレスにメールが届いていないかチェックし、届いていれば内容を調べ、返事を考えた。英語を基礎としたコミュニケーションによって、英語を通して相手を理解しようとすることを学んでいった(資料4)。

(5) 一行日記へのチャレンジ

インターネットの日常化と英語で考える力を継続的につけていくために、ホームページに「一行日記」を公開することにした(資料5)。これは、今後「チャット」というリアルタイムでのコミュニケーションへ発展させて



資料5 / 英語で綴る一行日記

いく前段階として、自分の思いを短い英文で表現できるようにしていくことが、ねらいの一つである。

(6) テレビ会議システムとチャットを利用した実践的コミュニケーション

相手の顔が画面に現れると、どの生徒も「あの子が私にメールをくれたんだ。」と大変嬉しそう様子だった。音声が届きにくいために、簡単な言葉しか交わすことができなかった。



14:14:25,"asai chiyoko","Hello"
 14:14:37,"Lim Chee Hong","Hello"
 14:14:56,"Lim Chee Hong","Where yoko and ai ?"
 14:15:02,"asai chiyoko","I'll give you a quiz"
 14:15:09,"Lim Chee Hong","ok"
 14:15:22,"Ong Chee Kuan","sure"
 14:15:44,"Lim Chee Hong","....."
 14:15:46,"Ong Chee Kuan","what is the Quzi about?"
 14:16:05,"Lim Chee Hong","You still there?"
 14:16:12,"asai chiyoko","What is the popular lunch for hiking or outing?"
 14:16:26,"Ong Chee Kuan","Sushi?"
 14:16:46,"asai chiyoko","no"
 14:16:50,"Lim Chee Hong","Sandwich?"

資料6 / 画面の様子と、チャットの会話の一部

ったが、相手の顔を見て、声を聞いたということが、生徒に大きな感動を与え、これまでの文字上の相手を、より身近な「友達」と感じられるようになった(資料6)。

チャットによる文字上の交流だけでは相手が見えないので、コンピュータの向こうにいる人を実感として捉えにくい面がある。その点、テレビ会議システムを利用することで、相手の顔・姿・向こうの教室の雰囲気を視覚的に捉えることができ、文字だけでは気づかない新しい発見をすることができた。

5 実践(2)理科

教材 「地球と太陽系・太陽系の生い立ち」
(20時間)

理科では、資料収集のためのホームページ検索、情報の先にいる人に直接問いかけるための電子メールやテレビ会議システムの利用を進めてきた。

ここでは特に、一人調べを進める生徒が情報を得る一つの手段として、「生徒自身がホームページを検索し、資料を手に入れる」こ

学習課題	学習内容	時間	備考
身近な星について調べよう	○太陽、月、地球についての観察、調査と比較 ・太陽の形と表面の様子、自転 ・月の表面の様子と大きさ、満ち欠け ・地球の表面の様子	6	インターネットや図書資料の利用 天体望遠鏡による観察
	○太陽、月、地球の不思議 第1回 3地点接続 テレビ会議	1	フェニックスを利用した新香山中とのテレビ会議、交流授業(国立天文台参加による3地点接続)
地球の仲間の星を調べよう	○太陽系を構成する惑星についての調査と比較 ・太陽系の構成 ・惑星の特徴と比較	4	インターネットや図書資料の利用 E-mailを利用した国立天文台への質問(随時)
	○太陽系の謎にせまる ・太陽系の生い立ち予想 第2回 3地点接続 テレビ会議	1	フェニックスを利用した新香山中とのテレビ会議、交流授業(国立天文台参加による3地点接続)
星の動きについて調べよう	○太陽、月の1日の動き ○夜空の星の動き ○天球の回転と自転の関係	4	透明半球を使った観測 星座観察ソフトによるシュミレーション
	○四季の星座の動きの調査と地球の公転の関係 ○地軸の傾きと太陽の南中高度の変化 ○惑星の動き	4	星座観察ソフトによるシュミレーション

資料7 / 指導計画

とを中心に取り上げ、述べる（資料7）。

(1) 話題の情報に意欲を高める生徒

太陽系を構成する惑星についての調べを進める段階では、アメリカのNASAが打ち上げた火星探査衛星（マーズパスファインダー）の画像や、探査結果をインターネットのホームページで見ることができた。このことは、その後の天体学習の強い興味づけになった。また、その後の「太陽系の生い立ちについて考える」の段階でも、これらの資料は役に立った。

(2) 資料検索に戸惑う生徒

ホームページ検索による資料の収集にあたっては、当初戸惑いが目立ち、自分の求める資料にいきつくことができずに時間が多くかかったり、また、せっかく手に入れた資料も内容が難しすぎて、結局教師が取捨選択したものを与えていったほうが、効率がよいという場面もみられた。

生徒がホームページを検索していく上での問題点をまとめてみた。

一斉授業の中で全員がホームページ検索を行うと、ページが表示されるまでに時間がかかってしまい、時間的ロスが多くなる。検索キーワードの入力で、十分に言葉が絞り込めず、多くのホームページを引き出してしまう。個人で公開している趣味のページに入り込んでしまい、情報の信頼性に疑いが持たれる場合がある。

(3) 検索をスムーズに行わせる教師支援

上に述べた問題点を解決するために、次のような教師支援を行うことにした。

図書やCD-ROMなどの資料検索と、ホームページ検索を併用させ、全員が同時にインターネットへアクセスすることのないように配慮し、アクセススピードを保証する。

生徒個々の調べたいことをあらかじめつかみ、検索に必要なキーワードについて、アドバイスをする。

サーチエンジンの特定、校内ホームページの中にリンク集を作成するなどして、検索範囲を絞り込ませる。

あらかじめ関連サイトを「ショートカット」にして保存しておき、必要に応じて生徒に与えるようにする。

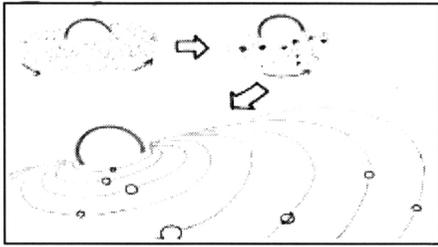
検索をしていくときは、公官庁や学校関係など、ある程度信頼のおけるサイトから検索させていく。

これらの手だてをもとに検索を行わせたところ、比較的スムーズに資料を得ることができた。しかし、中にはキーワードを絞りすぎたためにサイトが見つからなかったり、表示されたホームページの内容を理解しきれない生徒もいた。そうした場合には、教師の用意したサイトを参考にさせたり、図書資料を併用することを指示した。

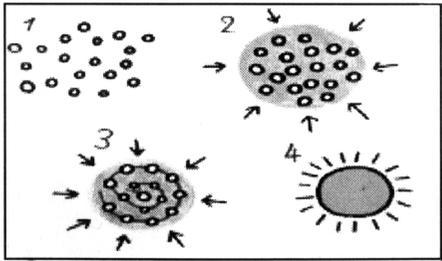
(4) 情報の先にいる人と関わり、疑問を解決しようとする生徒

「太陽系の生い立ち」について考える段階では、これまで生徒が調べを進めてきた情報をもとに、各自の発想で考えをまとめていった（資料8）。しかし、このテーマは正しい答えがあるわけではない。未知の部分を想像しながらも、専門家の意見を求めたいという生徒が現れ、東京国立天文台の渡辺潤一氏とコンタクトを取ることにした。

教師から、あらかじめ渡辺氏に協力を願えるように頼んでおいた。生徒は、自分の発想で考えた太陽系の生い立ちを紙にまとめ、スクリーンで読み込み、電子メールで送信した。何度か電子メールの行き来が行われた後、テレビ会議システムを利用して、実際にリアルタイムで渡辺潤一氏に登場してもらい、生徒からの個々の疑問を解決してもらったり、生徒が一人ひとり考えた「太陽系の生い立ち」



A子 太陽を中心として気体がぐるぐる回って、そのうち何かの原因で球体になった。自転と軌道ができたのはそのため。



B男 宇宙空間にある小惑星のようなたくさんの星の集まりが何かの拍子に押し縮められていく。だんだん球形になっていく。押し縮められた中はすごく熱くなっていく。

資料8 / 生徒が想像した「太陽系の生い立ち」

について、一つずつコメントをもらった。いつもの教師に教えてもらう授業とは違った雰囲気と、専門家の言葉に、生徒は真剣に耳を

傾け、考えを深めていった。

6 実践(3)社会科

教材 2年「中部地方～産業廃棄物問題を考える」(4時間)

時事問題を教材として取り上げ、インターネットの「最新の情報を即座に得ることができる」というメリットを生かすことにした。「消費税」や「死刑判決の是非」「産業廃棄物問題」などを取り上げた実践を行ったが、それらの実践の一例を述べる(資料9)。

(1)調べ活動を意欲的に進める生徒

産業廃棄物処理が社会的に関心の高い問題であることを、新聞が連日記事として掲載していることをもとに紹介し、授業で取り上げることにした。

日本全体の「産業廃棄物排出量の推移」の統計資料と「産業廃棄物のサンプル」を教師側で準備し、生徒に提示した。サンプルを見て産業廃棄物は自分たちの豊かな生活と密接な関係を持っているをつかんでいった。そして、その廃棄物が増加しているので真剣に考えていこうということになった。具体的には岐阜県御嵩町の処理場建設問題をもとに

学習課題	学習内容	時間	備考
岐阜県御嵩町の産業廃棄物処理施設建設問題について調べよう。	<ul style="list-style-type: none"> 御嵩町の産業廃棄物処理施設建設問題が社会的に注目されていること 産業廃棄物の排出量等の実態 御嵩町の住民投票 調べ活動と意見交流におけるホームページの利用方法 	2	<ul style="list-style-type: none"> 新聞記事 産業廃棄物 ホームページ
建設に賛成か反対かについて話し合おう。	<ul style="list-style-type: none"> 「賛成」「反対」の立場を明確にしての討論 	1	
「社会科の部屋」を利用して意見交流をしよう。	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ上への意見の書き込み 一般の方への電子メールの発信 	随時	
住民投票の結果と自分たちの意見を比べ、考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> 住民投票の結果 結果と自分たちの意見の比較、検討 	1	<ul style="list-style-type: none"> 新聞記事 ホームページ
建設の行方を追い、意見交流を続けよう。	<ul style="list-style-type: none"> 投票結果確定後の動き 意見交流 	随時	<ul style="list-style-type: none"> 新聞 インターネット

資料9 / 指導計画

討論を進めることにした。

どのような実態なのか調べるために、御高町のホームページにアクセスした。御高町の役場の公式ページは、建設予定地の航空写真や地図、処理品目など生徒にもわかりやすく、追究にあたって必要な情報が掲載されていた。38ページにもわたる膨大な量のホームページであったが、生徒は関心のある部分を選んで閲覧し調べていった。

(2)積極的に意見交換をする生徒

学級内の友達との話し合いを終えた生徒たちは、違うクラスの友達や一般の人と意見交流するために、本校ホームページの掲示板へ書き込みを始めた。「他のクラスの友達はどんな意見を持っているのだろう」と、目を輝かせてパソコンの画面を見つめていた。普段は知ることのできない他クラスの友達の意見を読むことの喜びは、教師の予想を越えるものであった(資料10)。

また、「eno」さんという外部の大人の方が、この掲示板を見て初めて意見を書いたくださったことも、「ホームページの掲示板を利用すれば、大人の人と意見交換をすることもできるんだ」という励みにもなった。

(3)意見交換をもとに考えを深める生徒

当初はそれぞれの意見表明が多く見られた。しかし、enoさんの「単純に賛成、反対の意

思表示をすればすむ問題ではありません。賛成でも反対でも、あとは行動で意見を裏づける必要があります。」という2回目の書き込みをもらってから、次第に意見がからみ合うようになり、深まっていった(資料11)。

合計121の書き込みが行われた。外部からは、enoさんの5回をはじめ、名大大学院生、北大大学生、2年2組の生徒の親、卒業生等の方々の書き込みが見られた。

(4)直接疑問を問う生徒

掲示板を通したenoさんとの関わり合いを重ねていくうちに、生徒から「もっと考えを聞いてみたい。」「自分の考えについてどう思うか、尋ねてみたい。」といった声が上がった。掲示板は、書き込む内容に添えて電子メールアドレスを入力するようになっている。enoさんのメールアドレスはわかっていたので、事前に教師がコンタクトを取っておいた後で、生徒に電子メールを直接送信させた。

ディスカッションしよう！	
<small>社会科の教室“ディスカッションしよう！”へようこそ このページは、社会科の授業で学習した内容について考えを深めていくことを目的としたページです。 クラスの枠や学校の枠を超えて、多くの友達や大人の方と意見交換ができればいいと考えています。 どうぞ気軽に意見を語り、書き込んでみてください。</small>	
● 産業廃棄物処理施設建設問題(2年)	終了しました。ご協力ありがとうございました。どんな意見交換がされたのか、ご覧下さい。
● 死刑判決	貴重なご意見をありがとうございました。書き込みはできませんが、内容はご覧いただけます。
● 賛成？反対？(3年)	
● 税金や	
● その使い方の問題(3年)	新しいディスカッションの場が開発されました。書き込みを是非よろしくお願ひします！
テーマ学習発表	
● 九州地方の風土・産業と人々の生活(2年)	生徒がそれぞれのテーマをもとに調べ、まとめました。是非、ご意見をよろしくお願ひします。

資料10 / 本校ホームページの社会科の部屋

2-5	産業廃棄物について	私は、今まだ、反対です。でも、enoさんの意見を聞いて、ただ、賛成か反対かをいうのではなく、今、自分ができる行動を考えて見たいと思った。
2-5	産業問題について	私は、今まで、賛成や反対にこだわっていたような気がします。でも、enoさんが、これからが、大切だということを、教えてくれました。それで考えたのですが、出たゴミは、リサイクルすれば、社会全体の役にたつし、これ以上、ゴミを増やさないとすむと思います。だから、リサイクルすればいいと思う。

資料11 / 考え方に変化が現れはじめた掲示板の書き込みの一部

7 インターネット利用の促進

充実したハード環境を有効に生かすために、様々な取り組みを行っている。

まず、指導する立場の教師全員が扱い方を身につけるために、全職員がホームページを公開し、また、毎日ホームページに掲載している「城北ニュース」は職員の当番制となっており、毎日更新されている。

学校生活の中では、ホームページの掲示板や電子メールを生徒と教師のコミュニケーションの手段として利用し、教室等にある身近なパソコンに触れる機会を増やしている。

また、生徒のみならず、父母にも理解を得ようと、年に数回、父母を対象としたインターネット講習会を開いている。こうした取り組みが、実践を支える基盤となっている。

8 研究の成果と問題点

(1)成果(1)

ホームページ検索による情報収集を単元や授業の中へ取り入れることで、生徒は主体的に目的へ向かって活動することができた。

これまでの「教師が与える資料」とは違い、生徒自身がマウスをクリックして、何が出てくるかわからない情報の海から自分の必要なものを探し出す。その醍醐味は生徒の学習意欲を高め、その後の学習展開にも大きく影響した。

しかし、実践で述べたように、ただやみくもに生徒に検索させれば良いのではない。必要な情報がスムーズに得られないと、生徒の欲求不満が高まり、学習の意欲を低下させることになる。「主体的な学習」は、教師の手をはなれて生徒が自分勝手に活動するものではない。生徒が目標を持ち、目的を明確にし

て通信型マルチメディアを利用し、学習を進めて行く姿である。そこには、教師が「プロデューサー」または「ナビゲーター」として授業を組み立てる立場としてかわらなければならない。

(2)成果(2)

ホームページ掲示板を利用した意見の交換や、電子メールでの関わり、またチャットやテレビ会議システムを利用したコミュニケーションは、教室の枠にとられない学習の広がりを持たせることができ、生徒が主体的に学習を進めていく基盤となった。

情報の先には、必ず「人」が存在する。通信型マルチメディアの利用を突き詰めて行くと、最終的には人と人とのコミュニケーションに行き着く。通信型マルチメディアを通して情報と関わっていくことは、すなわち情報の先にいる「人」から学ぶことである。電子メールやチャット、テレビ会議の活用は、その段階になって大きく学習に生きてくる。

これまでの、教師や教科書から学ぶ授業展開は、通信型マルチメディアの利用によって大きく変わる可能性を持っている。教室の枠にとられないアクティブな学習が可能となる。

(3)課題

中学生にとって有効で理解しやすい情報はほんの一部であり、ほとんどは大人向けに情報が発信されている現実がある。また、教師の意図しない情報の行き来が行われる危険性もある。

だれもが情報を手軽に発信できる反面、その信頼性が疑われたり、生徒にとって不必要

な情報が溢れすぎているのが、今のインターネットの現状である。そうした現実を踏まえた上で、通信型マルチメディアを有効に活用していくためには、「生徒自身に目的を明確に持たせること」が必要である。目的がはっきりしていれば、不必要な情報に惑わされることはない。

教師は、どのように単元を構成し、どの段階で通信型マルチメディアに生徒を関わらせるか十分吟味する必要がある。そうして授業の中では、自主的に学習を進める生徒のサポーターとしての役割を担い、授業を展開しなければならない。

(4)おわりに

インターネットを教科の学習に取り入れて行くことによって、教室の枠を越え、物理的な時間を越えた学習の広がりが期待できる。そうして教師は、「整理・案内役」に立場を変え、生徒は自ら学習を進めて行くことができる。こうした経験を積み重ねることによって、「主体的に学ぶ生徒」が育まれるものと考えられる。

しかし、一般に普及してまだ歴史の浅いインターネット等は、子どもである生徒が利用するには、多くの問題点と危険性を持っていることも事実である。

インターネット上の情報が、生徒が安全に扱えるものとして整備されると同時に、生徒自身が「情報の受信者・発信者」としての責任を自覚し、情報批判力・情報モラルを身につけながら、自ら求める学習に生かしていけるよう、今後も通信型マルチメディアの活用を研究・実践・検証していきたい。